



ユーザーと共創する 本当に欲しかったサービス

～製造業がアジャイルを取り入れた事例～

自己紹介

開発チーム立ち上げました
スクラムマスターです！



本田技研工業株式会社
スクラムマスター

船戸 康弘 氏

2006年 本田技研工業株式会社入社
生産技術開発部門で生産ロボットシステム開発を経験後、データサイエンス領域を担当。
画像処理やテキスト分析を中心としたデータ分析業務を経験。現在は、アプリケーション
開発チームを立ち上げて奮闘中。

チームをコーチングしてます！



クリエーションライン株式会社
アジャイルコーチ

笹 健太 氏

2018年にクリエーションラインに転職し、DevOpsチームに入る。他社のAgile・DevOps
導入支援を通じて、変革のお手伝いを行っている。前職ではScrumを採用した開発を実施
していた。

認定スクラムマスター（CSM）、認定LeSS実践者、DASA DevOps Fundamentals。

みんなに気持ちよく仕事を
してもらえるように頑張っています



本田技研工業株式会社
マネージャー

松本 芳宏 氏

本田技研工業株式会社入社後 IT部門にて営業系システム開発 研究開発部門のIT開発、
を経て現在は生産部門のIT業務を行う。
営業、研究開発、生産、と製造業の各領域のITを経験したが、今後は技術を持った若手の
提案や意思決定を最優先にする風土定着に尽力している。

会社紹介

2030年ビジョン：
すべての人に、“生活の可能性が広がる喜び”を提供する

二輪



四輪



マリン



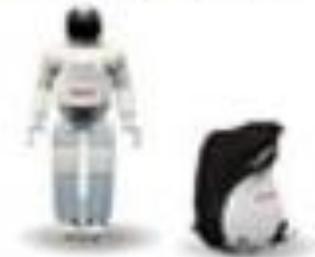
パワープロダクツ



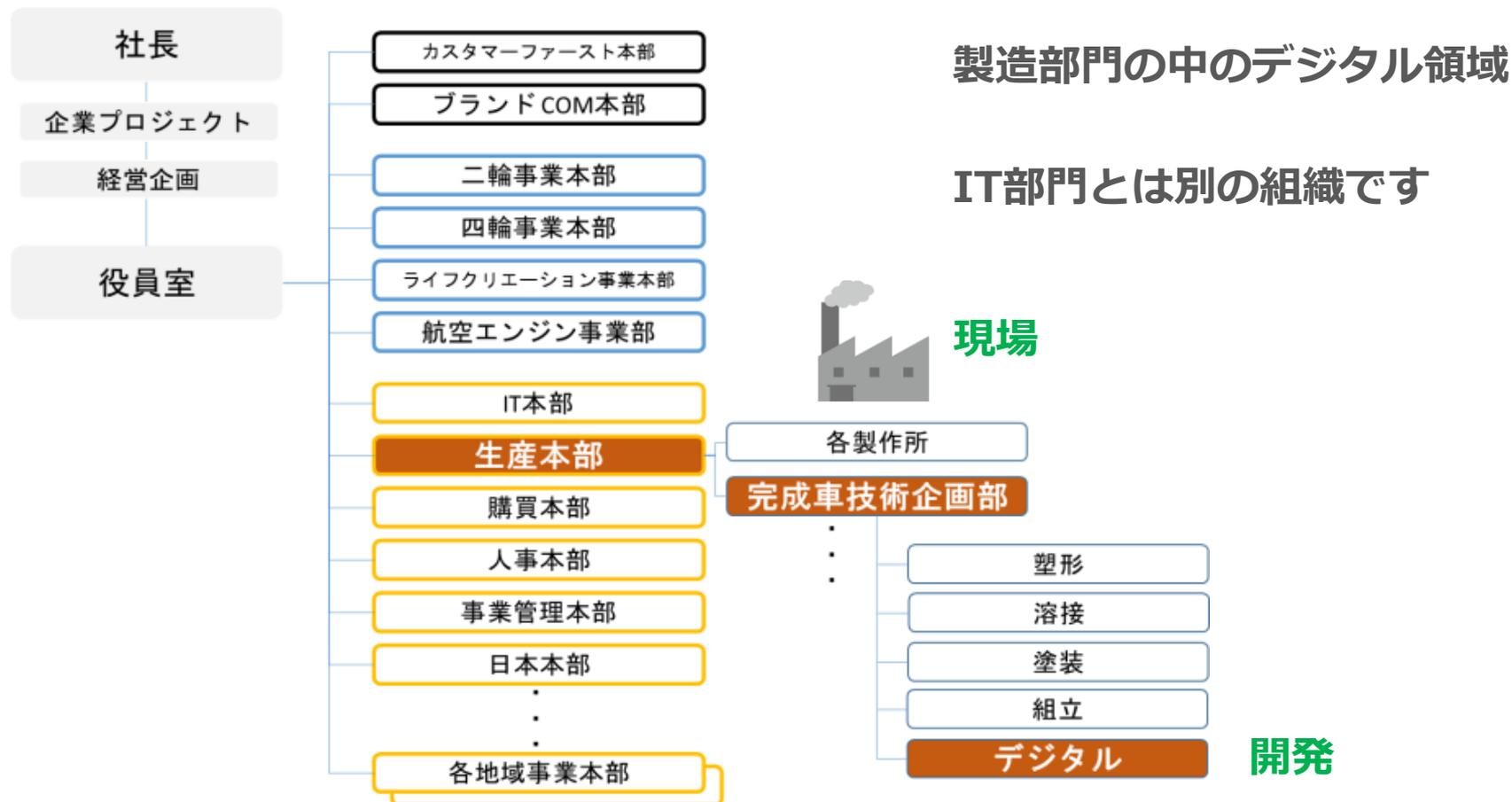
Honda Jet / 航空エンジン



ロボティックス



私達の部門



作っているもの

生産性を向上するための社内向けシステム



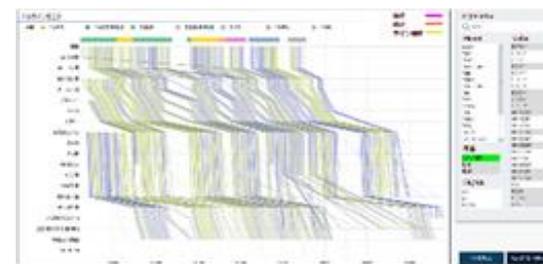
世界の工場のデータ



設備の予兆



電子帳票



生産工程の見える化

今のチーム

2018年10月に発足し、現在は社内外含めて **14名のチーム**
一年未満の新チーム

エンジニア
スクラムマスター
プロダクトオーナー
インフラ
UI/UXデザイナー
アジャイルコーチ

9名
1名
2名
2名



Product
Owner
1名



兼任 (1名)

Scrum
Master



Product
Owner
1名

UI/UX
デザイン



アジャイルコーチ
(外部)

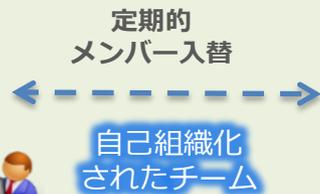
自立した
アジャイルチーム
構築を支援

開発しやすい
基盤を作る

インフラ
2名



チーム1



チーム2



登壇したときに
よく言われること

Hondaさんは
自由に新しいことが
出来て羨ましい

現實

数多くの**苦難**と
衝突を乗り越えてます

心に沁みる一言

①



Chatでコミュニケーションを取っていると



2020年7月1日

**遊ぶんじゃない！
履歴がすべて
残るんじゃないか！**

心に沁みる一言

②

英語でミーティング
していると...

真面目に
日本語でやれ！

心に沁みる一言

③

俺たちが必死で稼いだ
1円・1秒を一瞬にして
使ってしまうIT！
お金は使わせない

**みなさんの職場は
どうですか？**

こんな職場でも頑張ってきた
僕たちを見て

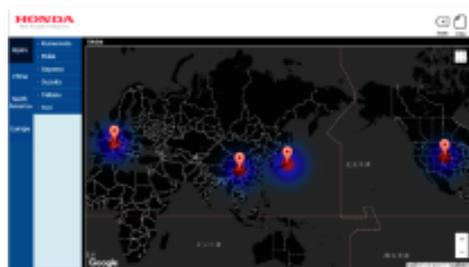
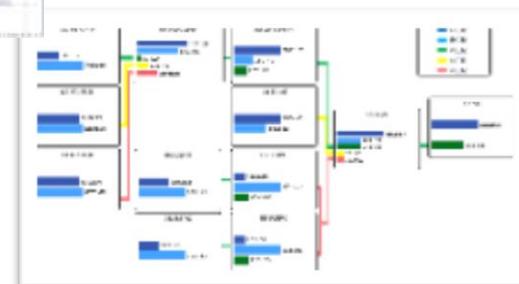
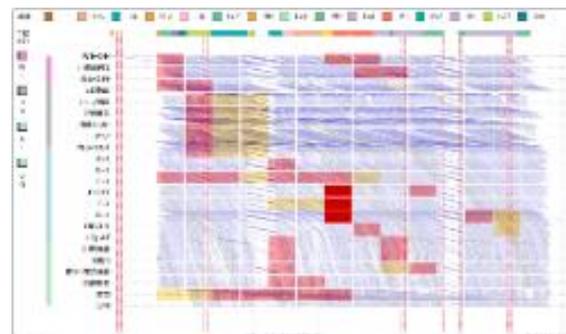
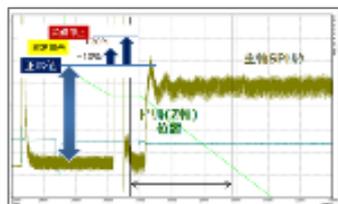
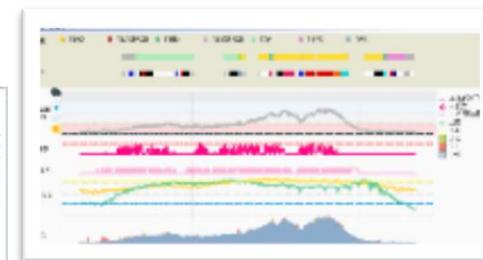
『**勇気**』を持ち帰ってください

自動車を作るということ

数万人の関係者がみんなですべて揃えるために

- 担当（セクショナリズム）
- 開発フロー、標準化、ルール、規律
- リーダー主導
- 管理・計画 が重要

それをそのままITに適應した結果



それをそのままITに適応した結果



使われないものを量産してしまった



早く何とかしないと…

はじめの一歩

現場スタッフの**困りごと**を**解決**するアプリを
1人で片手間で作成

現場のデータ集計作業

- ・ 手作業で収集
- ・ 手書きからの転記
- ・ エクセルで結合
- ・ 集計
- ・ レポートニング



はじめの一歩

現場スタッフの**困りごと**を**解決**するアプリを
1人で片手間で作成

簡単な手作りアプリで自動化



現場システム

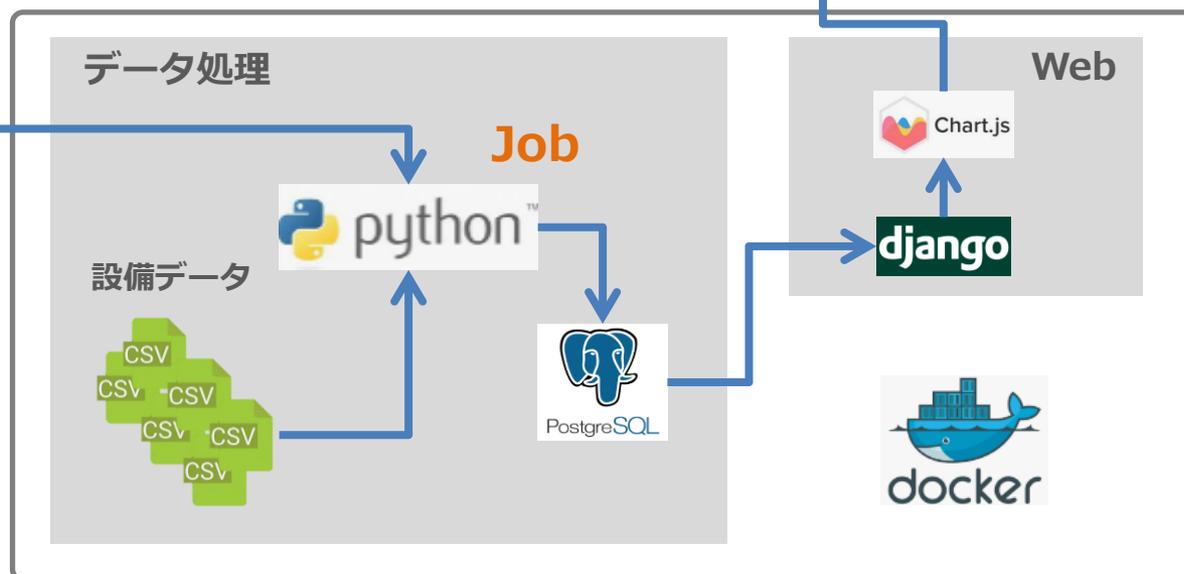


DBコネク

設備



データ転送



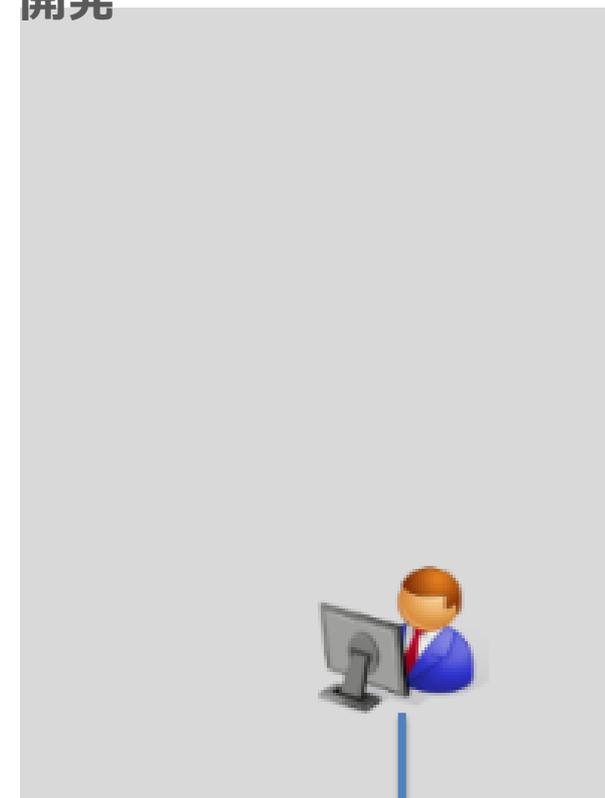
現場スタッフが喜んでくれた

噂が広まって作成依頼が多発

生産現場



開発



Done



Doing



開発



作業が追いつかず待ってもらうことに

生産現場



Done



Doing



Waiting

開発



開発

さらにバックオーダーが増大

生産現場



Done



Doing



Waiting



Waiting

開発



開発

メンバーを増やしたいと上司に提案するが...

生産現場



Done



Doing

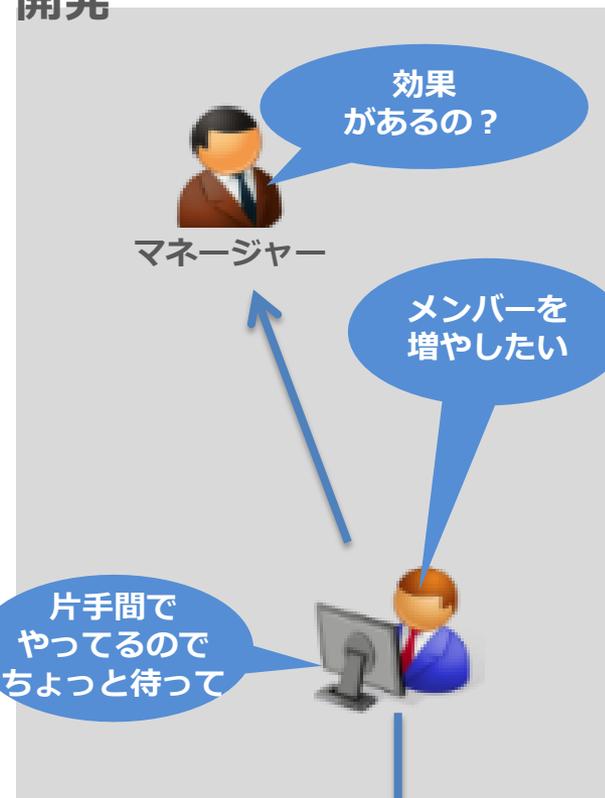


Waiting



Waiting

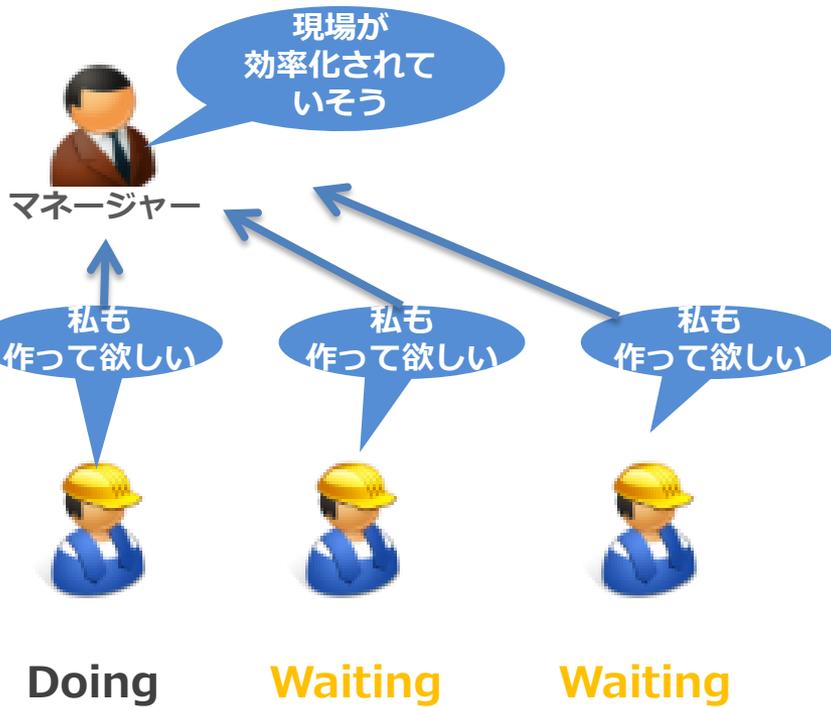
開発



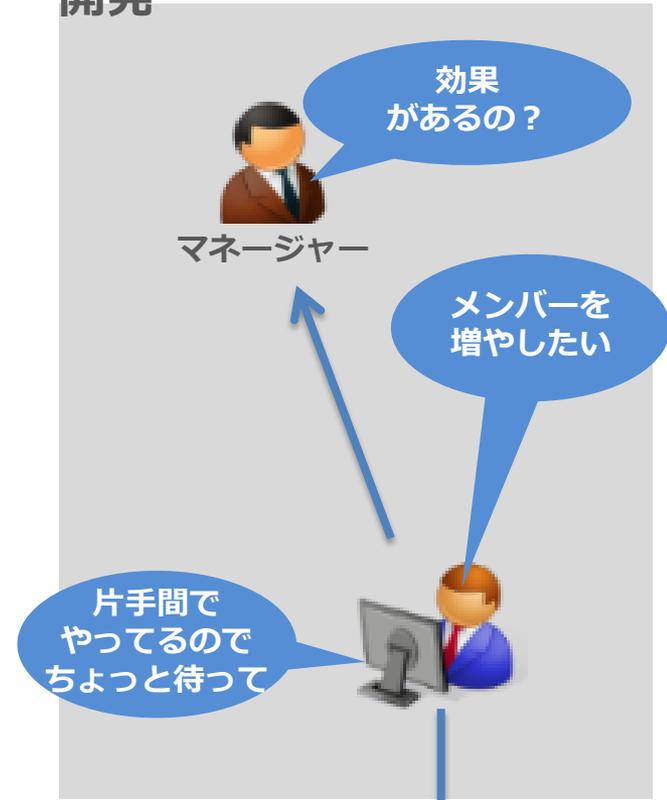
開発

そんなとき、現場のマネージャーが気づいてくれた

生産現場



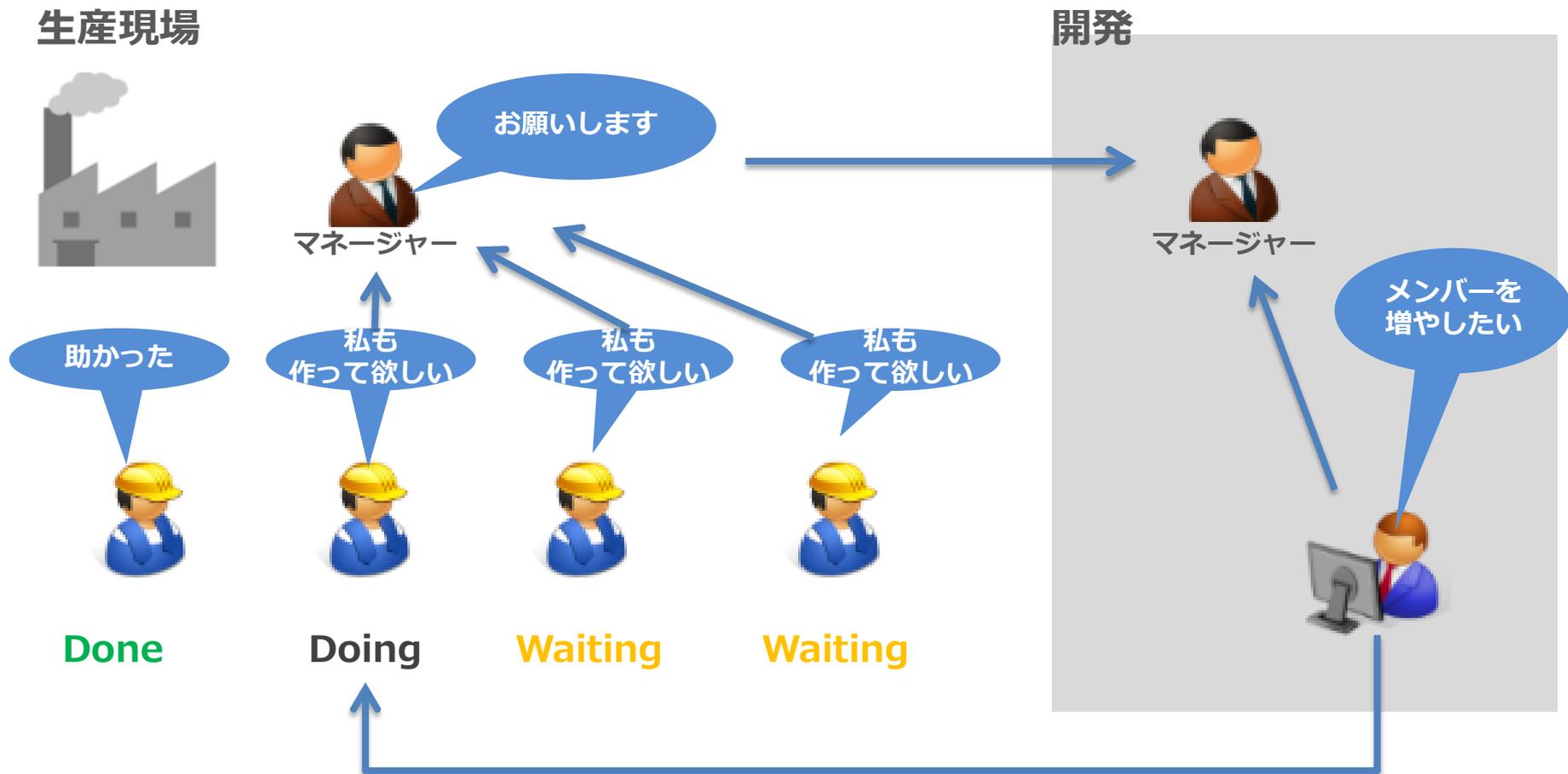
開発



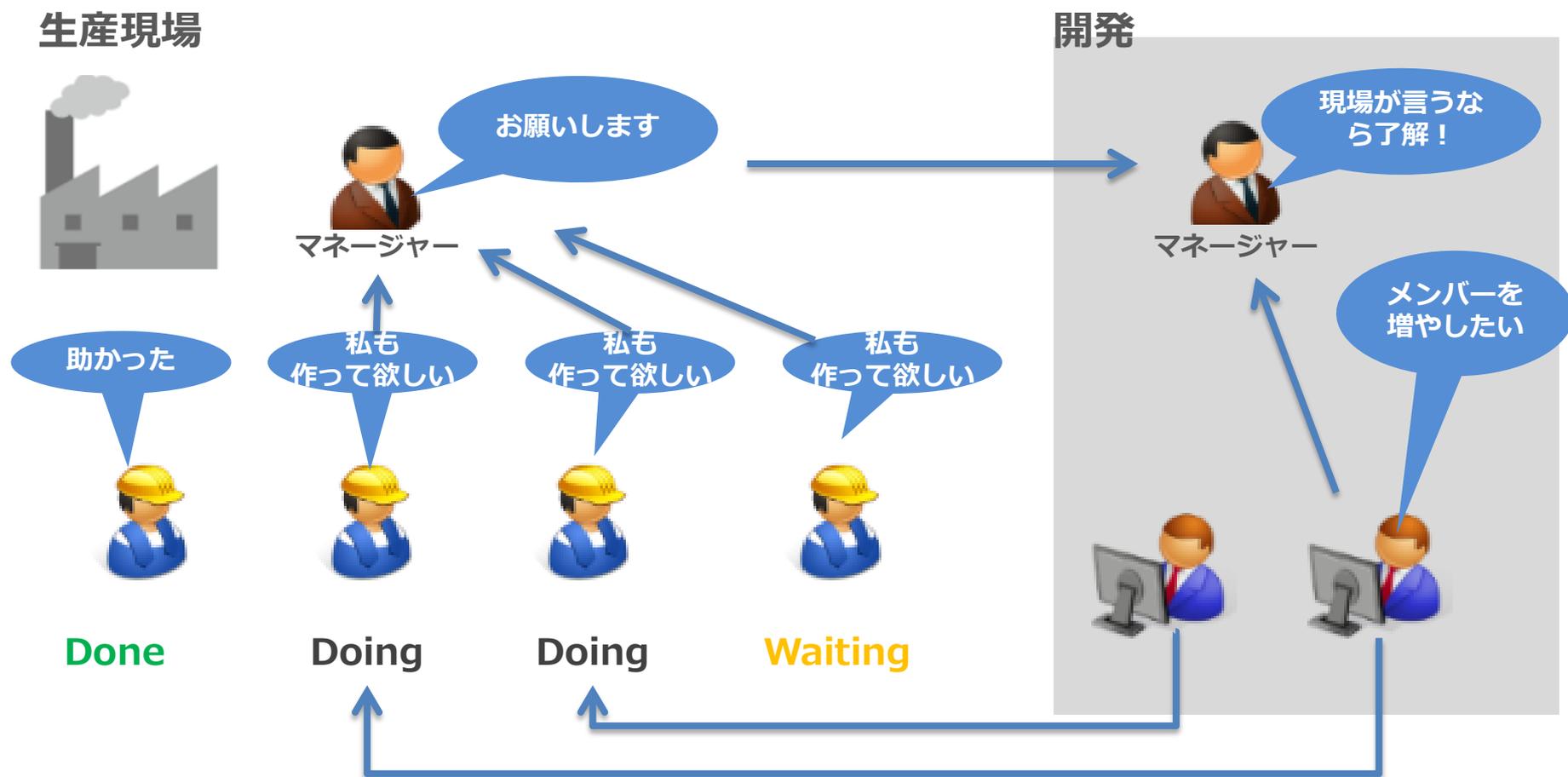
開発

組織間のコラボレーション

現場マネージャー ⇒ 開発マネージャーへ協力依頼



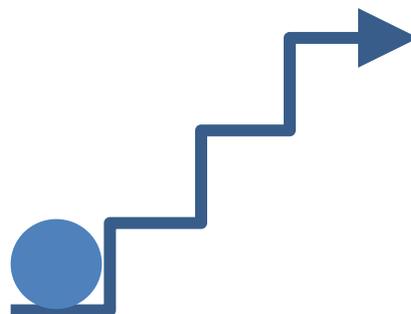
メンバーを増やして開発しよう！



社内開発の方針は
決まったが
数々の壁にぶち当たる

アジャイルチーム のジャーニー

STEP ①



3ヶ月ごとのステップ

委託開発

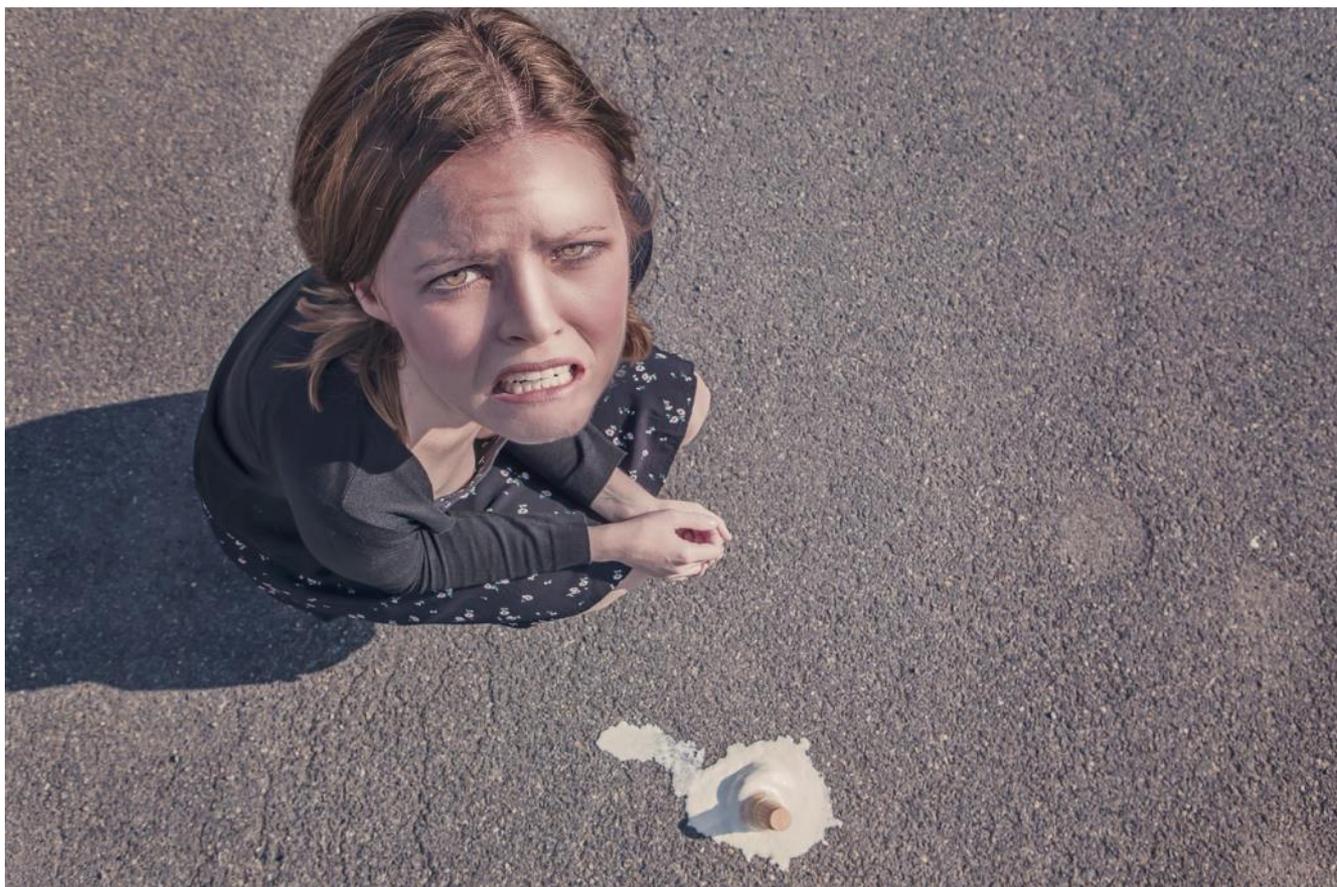
社内（部門内）にソフト開発が
出来るエンジニアが不足



委託でソフトウェアを開発

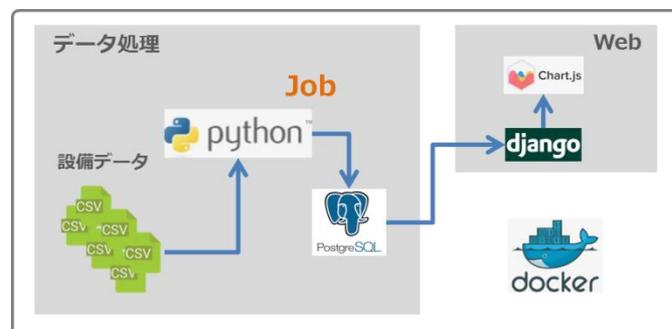
結果

システムそのものが出来なかった

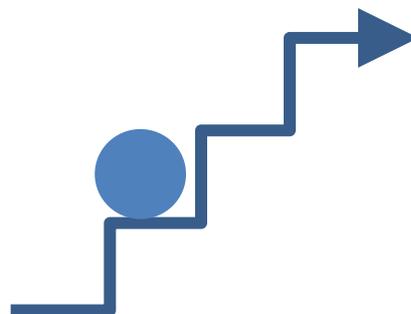


原因

- 社内のインフラを知らない
- スキル不足



STEP ②



3ヶ月ごとのステップ

複数拠点開発

- 社内のインフラはサポート
- スキルは委託先の
他拠点の支援をもらう

結果

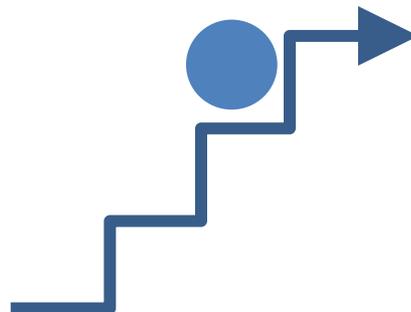
委託会社で内紛が勃発！！



原因

- 遠隔で**コミュニケーション不足**
- フロント/バック**責任区分**の争い？
- 問題が起きても**サポートできない**

STEP ③



3ヶ月ごとのステップ

内製開発へ

- コミュニケーションが取りやすいように
自社内**一箇所で開発**
- 同じチームとして**メンバーをサポート**

結果

ものは出来たが、活用されなかった

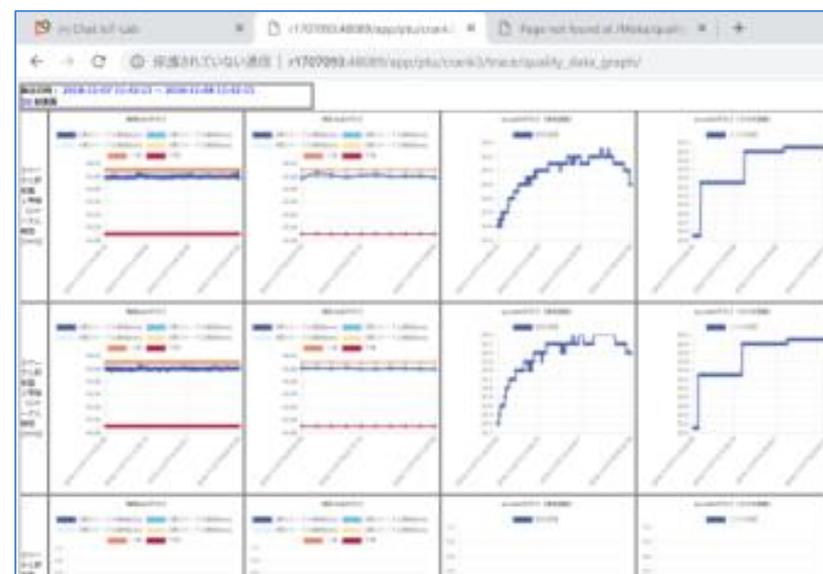


原因

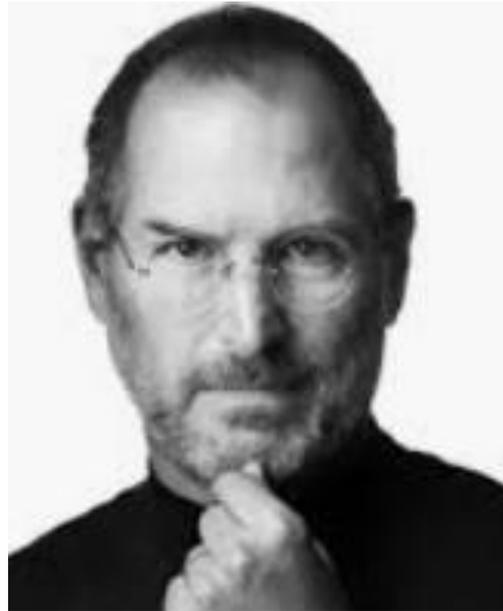
現場のいいなりに作っただけ



現場の要望
のイメージ

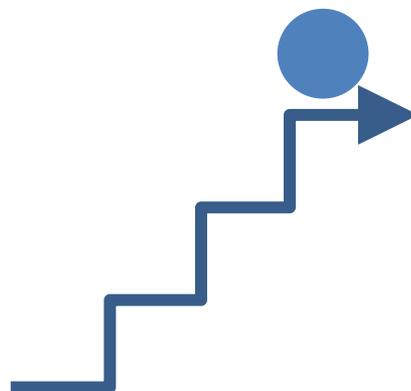


作ったもの



多くの場合、
人は形にして見せて貰うまで
自分は何が欲しいのかわからないものだ

STEP④



3ヶ月ごとのステップ

企画者だけでなく**現場ユーザーも一緒に**

- インセプションデッキ
- ユーザーストーリー
- カスタマージャーニー
- デザイン思考ワークショップ



一緒に開発

開発



現場



現場のユーザーの
プログラム体験

開発者の現場確認

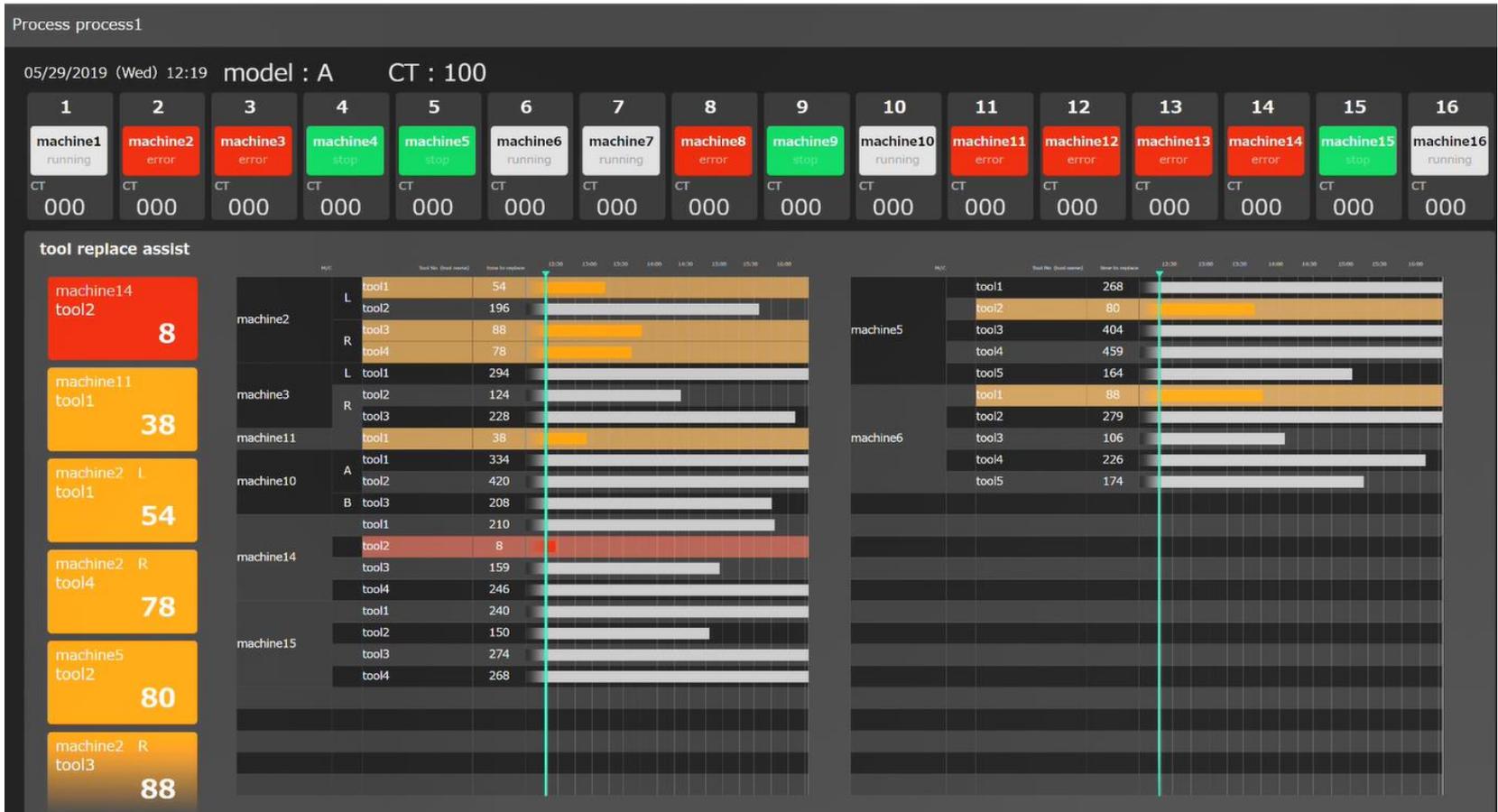
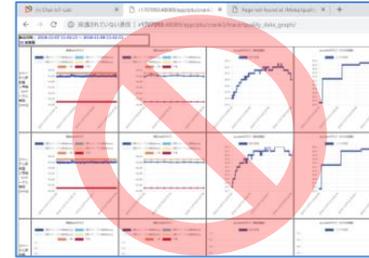


結果

やっと使われるものが出来た



出来たのもの



今後の懸念①

- エンジニアが増えた
- 属人化してきた
- 教育コストが増大

モブで解決



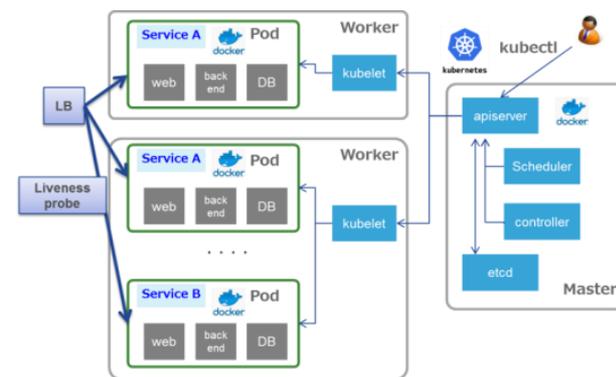
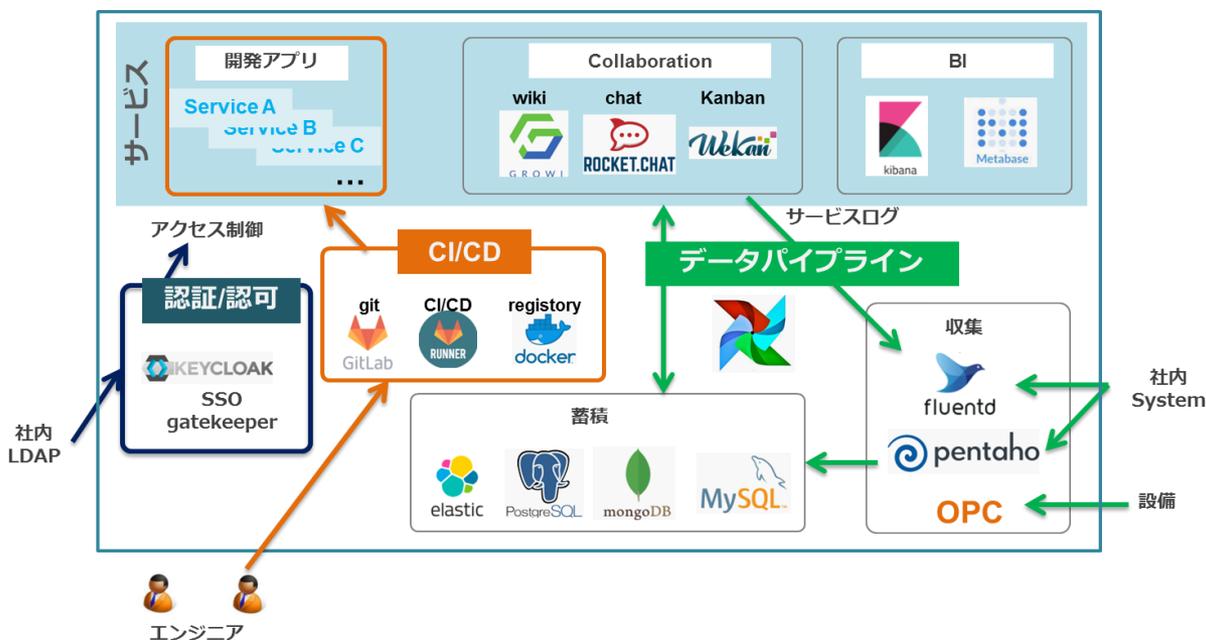
今後の懸念②

- サービスが増えて運用が大変に
- リグレーションコストの増大
- ユーザー管理が大変

開発インフラの強化

- CI/CD
- データパイプライン
- 認証認可

■ kubernetes



オンプレ/自社で構築中

クラウド使いたい...

開始から約 1 年

やっと
チームが動き始めました

振り返ってみると

**1年前1人でうまくやってた
時との共通点は？**

■ ユーザーと一緒にサービスを作っていた

1人なので

- エンジニア間コミュニケーションが不要ない
- メンバー、責任区分も自分自身
- 社内のインフラなども分かっていた
- スキル的にも十分

人が増えて、
ルールやフローが出来て、
報告も増えて

忘れかけてたこと

ユーザーとの対話

現場現物

困ってる姿を見た上でつくるのは重要



ユーザーの声

一緒に開発できて幸せでした！

開発チームに入りたいです

失敗するシステムが多い中、本当によくやってくれました（涙）

午前10時47分

PPO、開発メンバーも皆様ありがとうございました！

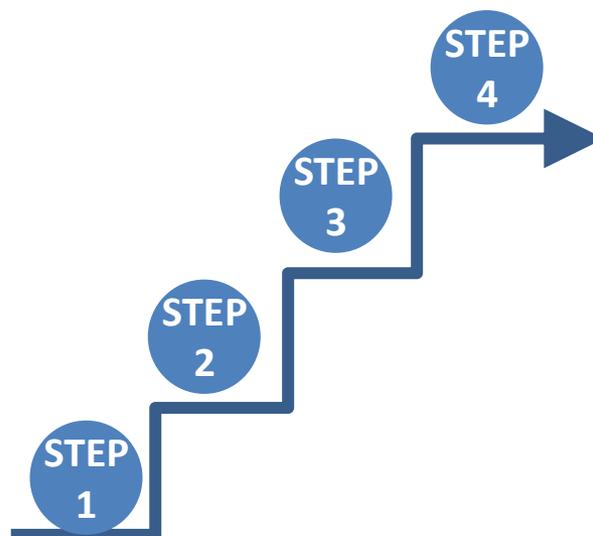
一緒に開発して頂て良い物ができてきたので、時間はかかると思うますが、自分たちのモノにしていきます。
残項目、今後出る要望含め今後ともご協力お願い致します。



もう一つ大切なこと

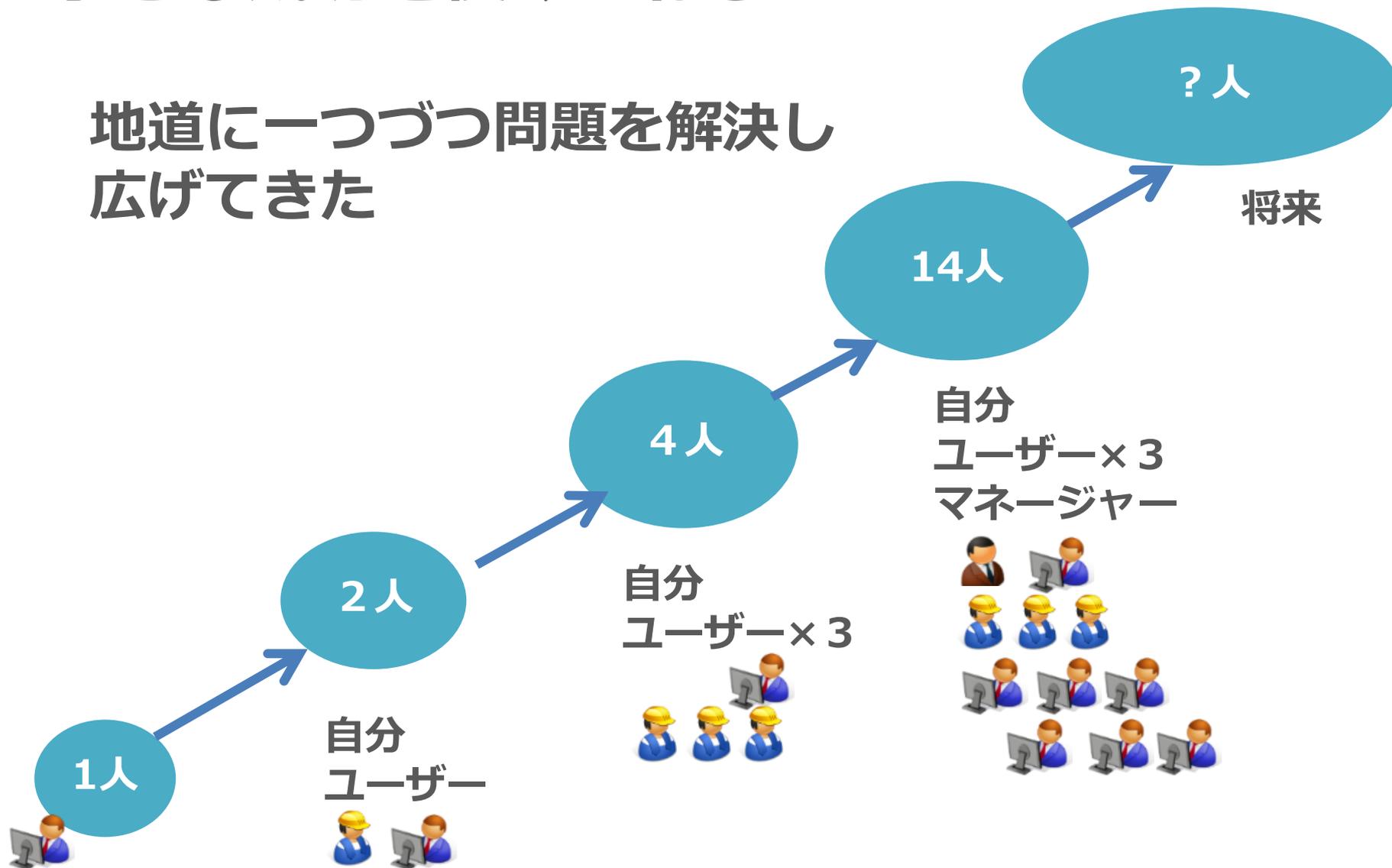
失敗から学ぶ

- 小さく失敗
- だめなものはすぐやめる
- 結果を共有（振り返り）



小さな成功を積み重ねる

地道に一つずつ問題を解決し
広げてきた



そして、本日聞いてくれている
マネージャーへ

今まで正しいと思っていた
積み重ねた概念を捨て

全く新たな価値感で、
若手を信じて支えること

注意点を
教える



You
やっちないなよ

提案の絶対的肯定

AgileJapanの仲間と一緒に
大変革期を乗り越えましょう。

日本のConventionalな製造業が
新たな方向へ踏み出した第一歩の
涙無くしては語れないストーリー
を作っていきたい

共感してくれた方
一緒にストーリーを作りましょう

We are hiring!